



題字：桂川中学校美術部

新原 玲菜 さん

## ■人材育成 自己実現

桂川中学校校長 安藤 能之

現在、桂川町では、就学前から中学校までつながるカリキュラムを通して子どもたちの成長を図っています。「ふるさと桂川プロジェクト」と呼んでいる、キャリア教育ともいわれる連続した取組のことです。その中で、「ふるさとを愛し、未来を担う人材の育成」を目指しています。

そこで今年度は、

・『3年生の「そーつくカルタ」に沿った桂川町探訪』

・すでにご報告しました『フィリピンへの海外派遣事業』

・『2年生の夏祭り桂川での「レモネードスタンド」や町内事業所等での「職場体験学習」』

・『希望者による「ときめきウォーク」参加とボランティア活動』

・『1年生の色々な職業の方から学ぶ学習』

など、積極的に地域社会と協働した様々な活動を行っています。

生徒たちは教科の授業や総合的な学習の時間などを使って多くのことを学び考えました。また、実際に

現地に出向いて自分の目で見て歩いて、いろんなことを感じたようです。

そこから自分たちなりに課題意識をもったり、人に声をかけ、自分たちの活動を説明する姿を通して、社会参画する充実感を味わったりしたように見えました。それらの経験が私たちの目指す人材育成と、子どもたちが目指す自己実現とにつながればと思います。

その間、学校の教育活動に協力していた多くの方々の地域の方々には、改めてお礼申し上げます。中学校も子どもたちの成長する姿を糧に、職員一同、精一杯努めますので、今後ともよろしくお願いいたします。



▶『ときめきウォーク』の様子

## ■DDD(サンデー)運動展開中

桂川町教育委員会

毎年4月に、全国学力・学習状況調査が実施されています。そこでは、児童生徒の学力だけでなく、「将来の夢」や「生活習慣」などに関する質問も行われます。

例えば「友達関係に満足していますか?」との質問に対して、桂川町の小学6年生は95%の児童が「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と肯定的な回答をしています。中学3年生も97%が同様の回答をしています。

全てを紹介することはできませんが、この例のように、他の質問においても桂川町の児童生徒は良い状況にあると言えます。

しかしながら、気になる回答もあります。それは、平日の学習時間です。「1日の家庭での学習時間が1時間以内」と答えた桂川町の小学6年生は53%となっています。

学習時間の減少に反比例して、児童生徒のデジタル機器やSNSの利用時間が全国的に増加しています。

デジタル機器は我々の生活に無くてはならないとても便利なものです。しかし、便利な反面、視力の低下や睡眠の質の低下など健康被害だけでなく、集中力や想像力の低下なども指摘されています。

そこで、「生き生き桂川っ子」総合推進事業協議会では、Digital(デジタル) Detox(デトックス) Day(デー)の頭文字と日曜日(サンデー)をかわせて、「月に1度はデジタル機器から離れてみませんか?」という意味で本年11月より、DDD(サンデー)運動を展開します。

この運動のキャッチフレーズは、「第1日曜日は○○○」です。

「本を読む」「散歩をする」などなど、○○○の中には町民の皆さんが思いの活動を当てはめてください。

大人も子供も、少しでもデジタル機器から離れてみませんか。

